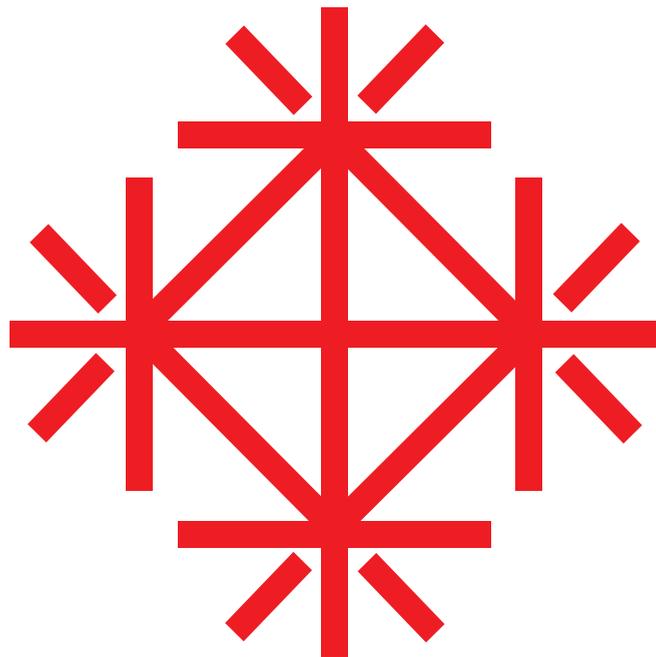


JASDAQ

証券コード:2700



KITOKU SHINRYO

第56期

中間事業報告書

平成15年10月1日～平成16年3月31日

木徳神糧株式会社

URL <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

私たちがめざす企業像

【企業価値】

～木徳神糧は、次のことに価値をおきます。～

常にお客さまのニーズに応えます。

お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。
社業の発展を通じて社会に貢献します。

【企業理念】

誠意と感謝の気持ちを持つ企業であり続けます。

より高いクオリティを追求する企業であり続けます。

新しい価値を創造する企業であり続けます。

～市場や顧客のニーズの変化に対応するだけでなく、変化を自ら創造し、市場や顧客に対して新しい商品やサービスを提供していきます。～

私たちは、こうした理念のもと、

お客さまに価値ある商品を、タイムリーにお届けしていくとともに、
『コメをコアとした食と暮らしの提案』を積極的に行っていきます。

マークにこめられた木徳神糧のスピリット

人が生きていくエネルギー源となる「米」。その「米」が人と人、人と社会を結び、ネットワークを形成していく…。このマークには、コメの供給を社会的使命とする木徳神糧が、お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会などのあらゆるステークホルダーとの信頼関係を築き上げ、限らない発展を遂げていくという、強い決意がこめられています。

木徳神糧グループのコンプライアンス行動基準

私たち木徳神糧グループは、

- 社会的責任と公共的使命を確認し、健全かつフェアで透明な業務活動を行っていきます。
- 職場環境の整備と個々人の個性・人権・プライバシーの尊重に努めます。
- 法令記載の文言の順守のみならず、その制定の趣旨、目的、精神の理解と順守にも努めます。
- 反社会的要求には断固とした姿勢で臨みます。
- 再生紙の利用、廃棄物の分別処理等、地球環境保護のための環境保全活動を着実に進めていきます。
- 進出国、進出地域の文化・慣習を尊重するとともに、地域に根差した企業活動を通じて、国際社会との調和を図り、持続的発展に努めます。
- 人種、皮膚の色、性別、宗教、国籍にかかわらず、公正に接し、外国人従業員に対しても、雇用機会均等々の維持に努めます。
- 地域社会との連帯と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての役割を果たすよう努めます。
- 利益と倫理が相反する場合には、迷わず「倫理」を選択します。

皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第56期中間事業報告書をお届けするにあたりまして、日頃のご支援に心よりお礼申し上げます。

当中間期における日本経済は、一部に先行きの明るさが見えたものの、個人消費は未だ不振の状況が続いております。また、当社グループの主力商品である米穀は、平成15年産作況指数が90「著しい不良」となり、これまでの過剰基調から原料不足へと激変いたしました。このため新米価格が高騰、末端価格も上昇し、消費者の米離れ現象とも言える状況となり、販売数量の減少につながりました。さらに、年明けには自主流通米の入札価格が大幅下落するなど、短期間で原料価格が乱高下するという事態となりました。

このような環境下で当社グループは、米穀卸業自体の意義が問われ直されている今、より存在価値のある企業への脱却が至上命題だと認識、自ら変化しなければならないとの問題意識を持ち、お客さまのニーズに応えた商品・サービスの開発・提供を進め、競争力の強化を図ってまいりました。

当中間連結会計期間の業績は売上高55,057百万円（前年同期比7.1%増）となり、米の安定供給という使命を果たすために在庫を積増した結果、保管料・金利負担が増加したこと、原料・販売用在庫の評価方法を原価法から低価法に変更し評価損432百万円を計上したことなどにより、営業損失は279百万円、経常損失503百万円、中間純損失は313百万円となりました。

また米穀事業においては、平成16年4月から改正食糧法が施行され、今後は生産者を巻き込んだ流通業者の競争が激化すると予測しております。当社グループでは、環境変化と厳しい状況に迅速に対応するため、取締役会のスリム化と意思決定のスピードアップを図るために平成16年4月に執行役員制度を導入いたしました。今後は主力である米穀事業の収益力の回復に力点を置き、商品企画開発・提案力の向上、自社ブランドの構築・育成、エリア戦略に基づいた関係会社の集約と協力体制の構築、有利子負債の圧縮とキャッシュフロー経営の推進等に積極的に取り組んでいく所存です。

通期の業績見通しにつきましては、今後は比較的落ち着いた値動きになると考えられることから、売上高は108,000百万円、経常損失215百万円、当期純利益は350百万円の黒字となる見込みです。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

木村良



改革・改善を推進し、収益力の強化を進めます

木徳神糧グループでは、現在を大きな転換期であると認識しています。

外部環境の変化に迅速に対処するため、スリムな組織・シンプルな指揮系統への再編を行っています。

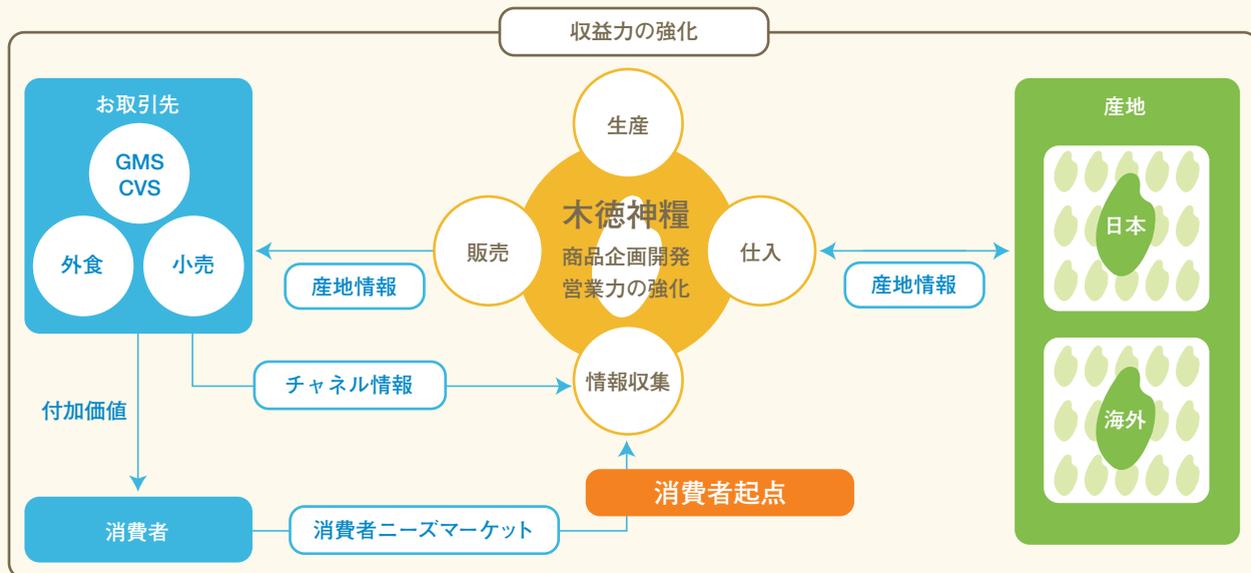
主力である米穀事業の収益力を回復し、強化するために、仕入・製造体制の改善、営業戦略の見直しを進めてまいります。

より必要不可欠な米穀卸へ 存在意義を問いつづけます

平成16年4月に改正食糧法が施行されたことにより、本年は米穀ビジネス自由化元年とも言える年であり、当社にとって大変重要な時期です。今後は、流通業界で卸・小売とも生存をかけた競争が激化することが予測されますが、当社は常に「必要不可欠な米穀卸」をめざし営業力の強化を図ってまいります。当社がこれまで進めてまいりました、トレーサビリティの裏付けがある「安全」、「安心」、「おいしさ」を商品と共にお客さまにお届けするという方向に間違いはないとの認識の

もとで、よりリーズナブルな商品を提供するために、仕入の多様化、産地情報の収集強化、ユニット制営業チームによる仕入・製造・販売情報の一元化により、お取引先への商品提案力の強化を行ってまいります。また、消費の減退が続いているなかにおいて、当社の成長のためには新規顧客の獲得が必要であると考え、新規開拓要員の増強、エリア戦略に基づいた地域販売体制の強化を併せて行ってまいります。

米穀事業のめざす姿



木徳神糧のコーポレートガバナンス

効率経営の実現に向けて、執行役員制度を導入し、組織を改編

平成16年4月1日付で執行役員制度を導入し、経営陣体制を刷新しました。これにより今まで10名いた取締役を5名にして取締役会をスリム化し意思決定のスピードアップを図りました。また、本社の組織を営業本部と業務支援部門に改編し、それぞれの部門を専務取締役が管轄しております。これにより、スリムな組織・シンプルな指揮系統によりスピーディーに業務を遂行できる体制が整いました。管理部門の本来の役割は、営業部門をサポートすることだということを明確にするため、業務支援部門と改めました。

木徳神糧のコンプライアンス

安全な「食」の提供に向け、コンプライアンスを確立

木徳神糧は、食品の安全性とお客さまなどステークホルダー（利害関係者）の信頼と安心を確固たるものとしていくことを重要な使命と考え、コンプライアンス体制を強化しております。平成15年1月に設置した品質表示管理委員会は、以後毎月開催し、商品表示の正確性、品質のチェック状況を確認しております。同時期に開始したコンプライアンス活動は、グループ全社の全役職員にコンプライアンス実践研修を実施、平成16年4月には「コンプライアンス行動基準カード」を全役職員に配布するなど、コンプライアンスの徹底を図っております。



コンプライアンス
行動基準カード



品質管理と環境認識

本牧精米工場（横浜市）において「ISO9001 品質マネジメントシステム」および「ISO14001 環境マネジメントシステム」の審査に合格し、平成16年4月7日付で、ロイドレジスター・クオリティ・アシュアランス社（LRQA）のISO登録者リストに登録されました。品質および環境の向上に取り組んでおります。



ISOマーク

TOPICS

味と価格の調和を実現した、こだわりのオリジナルブレンド米

平成15年度産米の不作による米不足対策の一環として、平成15年後半からいろいろなブレンド米が小売店頭で陳列されました。その内容は、古米銘柄同士のブレンド、新米・古米のブレンド、複数の産地・銘柄のブレンドなど実に多様でしたが、古米には食味が低下しているものが少なくないため、当社はいち早く新米（平成15年度産米）銘柄のみのブレンド米に切り替えました。おいしいお米をリーズナブルな価格で提供するブレンド米を紹介いたします。

楽しきわが家：

産地・銘柄ごとに分析を重ねた、従来から販売している無洗米です。



●無洗米 楽しきわが家

●楽しい食卓



楽しい食卓：

楽しきわが家と同じコンセプトで登場した、普通精米です。

あきたこまちブレンド：

あきたこまちを60%に、これと相性のよい産地、銘柄米をブレンドし、単一米より安価なお米です。無洗米と普通精米を用意しております。



●無洗米 あきたこまちブレンド

●あきたこまちブレンド



随時更新中!!

最新情報は当社HPトピックスの「木徳神糧の商品」頁をご覧ください。

大好評「タイ香り米」の パッケージをリニューアル

●タイ香り米

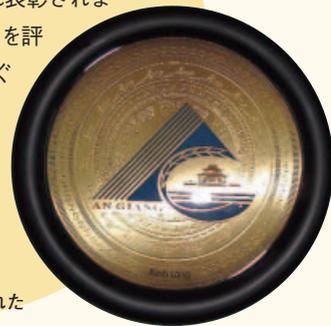


独特な芳香と柔らかな食感で、高級食材として高い評価を受けている木徳神糧の「タイ香り米」。商品の魅力をよりわかりやすく直感的に訴える新パッケージにリニューアルしました。パッケージ裏面には「タイ香り米」の特長や炊飯器でのおいしい炊き方、ナシゴレン（インドネシア風焼き飯）のレシピなどを掲載。本格的なエスニックメニューも木徳神糧ホームページでご覧になれます。

アンジメックス・キトク合弁会社の 受賞続く

2004年3月、アンジメックス・キトク合弁会社（ベトナム）が、ベトナム・アンジャン省より、優良企業として表彰されました。その年度に総合的に優秀な成績を残した会社と与えられる賞で、合弁会社を受賞するのはアンジャン省では初めてのことで、同年5月には、2003年度優良輸出企業に選ばれ表彰されました。特に輸出面で貢献があったことを評価されたものです。省政府からの相次ぐ受賞は、1991年に設立したアンジメックス・キトク合弁会社の事業がベトナムにおいて一流企業として認められたことになり、非常に名誉なことと現地社員の士気も上がっております。

●アンジャン省から贈呈された記念プレート

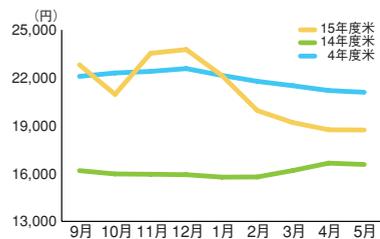


木徳神糧の旬な話題のココが知りたい!? Q&A

Q お米が不作で大変だというニュースが多かったのですが、実際にはどのような状況だったのですか？

A 平成15年度産水稲は全国的に日照不足や7月の著しい低温が影響し、生産量は779万トンと戦後4番目の不作の年になりました。9月には自主流通米価格が前年対比3～5割高の2万円台に高騰、12月までは高値水準が続きました。末端価格も大幅に上昇し消費者の米離れ現象が起きたため、翌年1月以降は一転して価格は下落しました。米不足対策として政府備蓄米が放出されましたが、需要量が減少した結果、流通段階では大量の在庫を抱えることになり、現在、米不足感は解消されております。

● 月別米穀指標価格（全銘柄加重平均）の推移



16年2月末の民間流通在庫 **76**万トン
(前年同期比+43万トン)

● 米穀の指標価格と生産量の推移



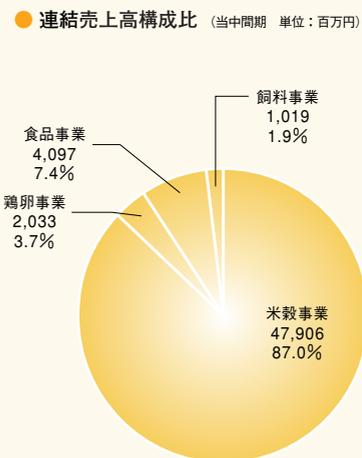
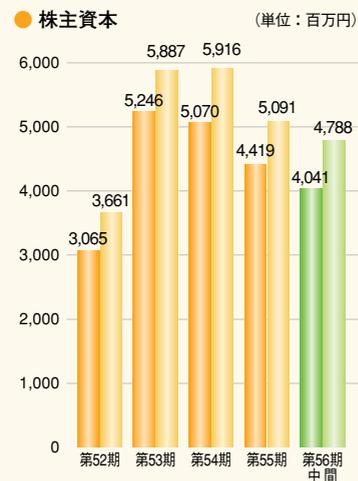
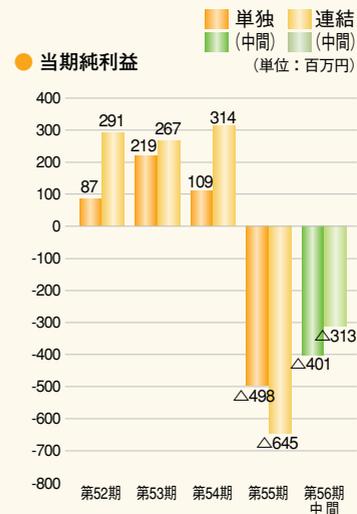
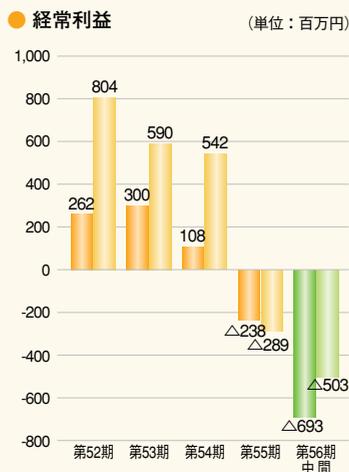
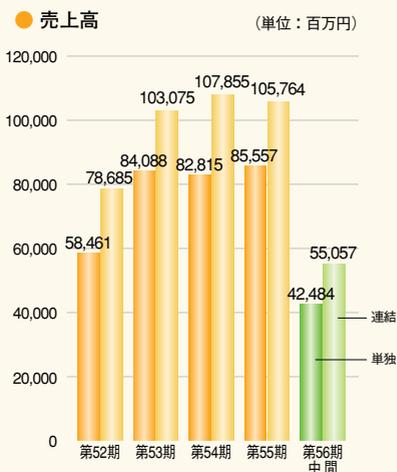
出典：指標価格はコメ価格センター資料により作成
(平成15年度は5月までの累計加重平均)
生産量は農林水産省総合食料局資料により作成

Q 食糧法が改正されたそうですが、どう変わるのですか？

A 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（食糧法）が改正され平成16年4月1日から施行されています。この法律改正は、「米の生産・流通関係者の主体性を重視しつつ安定的な生産・流通を確保する観点から、生産調整の円滑な推進、適正かつ円滑な流通の確保等に必要の各種の措置を講ずる」（農林水産省総合食料局）ことを趣旨として行われました。これまでの国による生産・流通への統制を廃し、民間事業者による米の安定的な供給を図ることが目的で、多様化する消費者ニーズに応えるため、「売れる米づくり」を生産者に求めるものとなっており、この改正により「自主流通米」という名称はなくなりました。当社をはじめ流通業者にとっては生産者、生産者団体、食品メーカーなどとの様々な取組みによって、他社との差別化を図るチャンスが増えることになり、消費者ニーズをタイムリーに製品づくりに生かす能力が求められます。この結果小売店頭には多種類のお米が陳列され、消費者はいろいろなお米の中から選ぶことができるようになると思われれます。また、消費者の関心が高い、安全、安心への対応としてJAS法による表示規制と国による取締りが強化されております。

FINANCIAL HIGHLIGHT

財務ハイライト



※平成12年10月1日(第53期期首)に、木徳株式会社は、神糧物産株式会社と合併し、木徳神糧株式会社となりました。

区	分	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期中間
売	上	78,685	103,075	107,855	105,764	55,057
	高 (百万円)	58,461	84,088	82,815	85,557	42,484
経	常	804	590	542	△ 289	△ 503
	利 益 (百万円)	262	300	108	△ 238	△ 693
当	期	291	267	314	△ 645	△ 313
	純 利 益 (百万円)	87	219	109	△ 498	△ 401
株	主	3,661	5,887	5,916	5,091	4,788
	資 本 (百万円)	3,065	5,246	5,070	4,419	4,041
総	資	22,222	33,108	32,893	31,465	38,404
	産 (百万円)	16,411	27,473	24,861	24,673	30,468

※上段は連結、下段は単独を示しております。

事業の概況

【米穀事業】

米穀事業は、10年ぶりの不作による原料事情の激変への対応に追われ、平成15年産米の不作による供給量不足を政府の古米在庫で補い、年間の総需要量を間に合わせるという需給環境での営業となりました。原料事情による供給不安、価格上昇に対応するため、自主流通米に加え政府在庫の古米を手当し、原料在庫の確保に努めました。一方、製品の販売面においては、これまで激しい価格競争が継続してきた環境にあって、急激な原料価格の上昇を製品価格に十分に転嫁することができず、粗利益が低下しました。また、15年産製品の店頭価格の大幅な上昇による売上不振の状況が見られたことから、売れ筋価格帯の品揃えのため、ブレンド米を投入しましたが、販売数量の低下を補い収益改善に貢献するには至りませんでした。加えて、原料用・販売用在庫の評価方法の変更による評価損の発生、政府古米使用数量の増加による保管料、横持ち運賃の増加が利益低下の要因となりました。このような状況により、米穀事業の当中間連結会計期間における売上高は47,906百万円（前年同期比9.0%増）でしたが、営業利益は159百万円（同57.8%減）となりました。

【鶏卵事業】

鶏卵事業は、昨年対比20～30%安の鶏卵価格相場、鳥インフルエンザの国内感染発生により消費が減退するという厳しい状況での営業となりました。特売等の積極的な販売活動およびコスト削減の結果、当中間連結会計期間における売上高は2,033百万円（同13.3%減）、営業利益は67百万円（同87.3%増）となりました。

【食品事業】

食品事業の主力商品である鶏肉は、海外および国内で発生した鳥インフルエンザの影響などにより、販売数量の減少となりました。また、飼料価格値上がりは生産部門の収益を圧迫いたしました。惣菜につきましては売上増加となりましたが、きめ細かい消費者ニーズへの対応から少量多品種生産となり、製造コスト増を吸収しきれず利益減となりました。一方、15年産米の不作によりもち米粉、上新粉の販売は堅調に推移し収益に貢献いたしました。このような状況により、当中間連結会計期間における売上高は4,097百万円（同1.7%増）、営業利益は137百万円（同575.9%増）となりました。

【飼料事業】

飼料事業は、強みとする米糠、ふすまなどの糟糠類の販売、専門商社機能の強化を行うなど着実な営業により取引の維持、拡大を図りました。その結果、当中間連結会計期間の売上高は1,019百万円（同4.2%減）、営業利益は79百万円（同71.9%増）となりました。なお、平成14年12月1日付でカネコ種苗株式会社に園芸部門を営業譲渡したことから、前年同期には2ヵ月分の売上高と営業損失が含まれております。

FINANCIAL DATA

連結貸借対照表

科 目	(単位：千円)		
	当中間期 (平成16年3月31日現在)	前中間期 (平成15年3月31日現在)	前期末 (平成15年9月30日現在)
資産の部			
流動資産	24,682,913	18,826,957	18,066,848
現金及び預金	2,806,863	2,474,101	2,304,169
受取手形及び売掛金	9,350,623	8,999,241	8,905,446
たな卸資産	11,158,457	4,894,744	3,956,831
未収入金	816,477	1,587,638	2,042,651
その他	681,680	981,312	1,013,467
貸倒引当金	△131,188	△110,081	△155,717
固定資産	13,721,634	13,499,796	13,399,103
(有形固定資産)	(10,305,001)	(10,642,373)	(10,603,782)
建物及び構築物	3,630,645	3,831,422	3,749,552
機械装置及び運搬具	2,532,038	2,359,625	2,710,057
土地	4,046,541	4,024,169	4,046,541
建設仮勘定	1,060	321,450	—
その他	94,716	105,706	97,630
(無形固定資産)	(604,620)	(159,838)	(146,122)
(投資その他の資産)	(2,812,012)	(2,697,585)	(2,649,199)
投資有価証券	1,195,223	1,170,210	1,132,459
その他	1,645,937	1,699,225	1,729,710
貸倒引当金	△29,148	△171,851	△212,971
資産合計	38,404,548	32,326,754	31,465,952

科 目	(単位：千円)		
	当中間期 (平成16年3月31日現在)	前中間期 (平成15年3月31日現在)	前期末 (平成15年9月30日現在)
負債の部			
流動負債	23,204,568	18,415,239	16,516,703
支払手形及び買掛金	2,630,006	3,106,598	3,463,933
短期借入金	16,196,087	10,376,512	8,610,684
一年内償還予定社債	—	500,000	500,000
一年内返済予定長期借入金	2,668,752	2,875,482	2,549,026
未払法人税等	116,617	67,464	63,040
賞与引当金	187,985	202,075	186,421
その他	1,405,119	1,287,106	1,143,598
固定負債	10,075,831	8,337,932	9,502,177
社債	2,150,000	800,000	1,700,000
長期借入金	7,669,261	7,144,481	7,452,577
退職給付引当金	25,424	26,263	27,428
役員退職給与引当金	—	172,476	177,801
連結調整勘定	12,205	48,510	39,276
その他	218,940	146,201	105,093
負債合計	33,280,399	26,753,172	26,018,881
少数株主持分			
少数株主持分	335,371	416,601	355,519
資本の部			
資本金	529,500	529,500	529,500
資本剰余金	331,500	331,500	331,500
利益剰余金	3,795,242	4,244,682	4,138,619
その他有価証券評価差額金	161,189	72,061	117,099
為替換算調整勘定	△16,654	△11,316	△14,190
自己株式	△11,999	△9,446	△10,977
資本合計	4,788,777	5,156,980	5,091,552
負債、少数株主持分及び資本合計	38,404,548	32,326,754	31,465,952

連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期	前期末
	(自 平成15年10月1日 至 平成16年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)
売上高	55,057,636	51,394,058	105,764,610
売上原価	51,740,147	47,801,057	98,359,888
売上総利益	3,317,488	3,593,001	7,404,722
販売費及び一般管理費	3,596,969	3,752,203	7,438,095
営業利益 (又は営業損失)	△279,481	△159,202	△33,373
営業外収益	128,357	100,025	240,334
受取利息	4,097	4,268	10,631
受取配当金	5,283	3,445	12,873
不動産賃貸収入	83,085	48,525	121,479
持分法による投資利益	1,497	1,612	493
連結調整勘定償却額	5,590	6,734	13,468
その他	28,801	35,439	81,388
営業外費用	351,899	226,752	496,263
支払利息	228,749	165,816	336,924
不動産賃貸費用	74,445	37,020	100,998
社債発行費	7,200	7,050	29,500
その他	41,504	16,864	28,840
経常利益 (又は経常損失)	△503,023	△285,929	△289,303
特別利益	94,073	213,523	355,104
固定資産売却益	92	141,358	142,142
投資有価証券売却益	59,971	—	137,544
貸倒引当金戻入益	33,304	20,203	—
受取保険金	—	50,304	49,613
その他	704	1,657	25,803
特別損失	100,832	737,349	975,505
固定資産売却損	—	52,750	56,863
固定資産除却損	577	3,885	8,769
投資有価証券売却損	—	—	924
投資有価証券評価損	—	10,116	1,302
ゴルフ会員権評価損	—	6,300	1,785
貸倒引当金繰入額	3,873	104,591	207,428
精米不正表示関連損失	—	496,534	579,565
その他	96,381	63,170	118,866
税金等調整前中間 (当期) 純利益 (又は税金等調整前中間 (当期) 純損失)	△509,783	△809,756	△909,704
法人税、住民税及び事業税	117,777	72,131	116,043
法人税等調整額	△300,994	△257,227	△250,017
少数株主利益 (又は少数株主損失)	△12,709	△67,981	△129,998
中間 (当期) 純利益 (又は中間 (当期) 純損失)	△313,856	△556,679	△645,732

FINANCIAL DATA

連結剰余金計算書／連結キャッシュ・フロー計算書／重要な子会社等の状況

●連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期	前期末
	(自 平成15年10月1日 至 平成16年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	331,500	331,500	331,500
資本剰余金中間期末(期末)残高	331,500	331,500	331,500
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	4,138,619	4,857,894	4,857,894
利益剰余金減少高	343,377	613,212	719,274
配当金	17,001	31,930	48,940
役員賞与	12,513	24,601	24,601
中間(当期)純損失	313,856	556,679	645,732
自己株式処分差損	6	—	—
利益剰余金中間期末(期末)残高	3,795,242	4,244,682	4,138,619

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当中間期	前中間期	前期末
	(自 平成15年10月1日 至 平成16年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年3月31日)	(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,087,954	△ 1,482,804	△ 458,029
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 248,691	△ 979,505	△ 1,216,890
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,839,999	628,396	△ 296,781
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 2,461	△ 1,812	△ 3,958
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	500,892	△ 1,835,726	△ 1,975,659
現金及び現金同等物の期首残高	2,287,032	4,262,692	4,262,692
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	—	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,787,925	2,426,966	2,287,032

●重要な子会社等の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
木徳九州株式会社	100,000千円	100%	米穀搗精販売業
キトクフーズ株式会社	150,000千円	100%	食品製造販売業
株式会社ライスピア	50,000千円	100%	米穀搗精加工販売業及び食品製造販売業
キトク・アメリカ会社	200,000US\$	100%	米穀輸入販売業
内外食品株式会社	160,000千円	72%	畜産物加工販売業
アンジメックス・キトク合弁会社	716,000US\$	67%	米穀搗精販売業
備前食糧株式会社	98,000千円	70%	米穀搗精販売業

(注) 平成15年10月1日付で食品事業部門を分割し、キトクフーズ㈱を承継会社とする吸収分割(簡易分割)を実施しております。

単独財務諸表

●貸借対照表(要旨)

科 目	(単位：千円)		
	第56期中間期 (平成16年3月31日現在)	第55期中間期 (平成15年3月31日現在)	第 55 期 (平成15年9月30日現在)
流動資産	19,041,916	13,679,584	13,548,780
固定資産	11,426,849	11,137,731	11,124,948
(有形固定資産)	(7,466,011)	(7,793,830)	(7,658,807)
(無形固定資産)	(497,582)	(89,310)	(76,224)
(投資その他の資産)	(3,463,255)	(3,254,589)	(3,389,915)
資産合計	30,468,766	24,817,315	24,673,728
流動負債	18,138,121	14,027,876	12,720,979
固定負債	8,289,253	6,386,679	7,533,660
負債合計	26,427,375	20,414,556	20,254,639
資本金	529,500	529,500	529,500
資本剰余金	331,500	331,500	331,500
利益剰余金	3,034,079	3,478,762	3,452,356
株式等評価差額金	158,311	72,443	116,709
自己株式	△ 11,999	△ 9,446	△ 10,977
資本合計	4,041,390	4,402,759	4,419,088
負債及び資本合計	30,468,766	24,817,315	24,673,728

●損益計算書(要旨)

科 目	(単位：千円)		
	第56期中間期 (自平成15年10月1日 至平成16年3月31日)	第55期中間期 (自平成14年10月1日 至平成15年3月31日)	第 55 期 (自平成14年10月1日 至平成15年9月30日)
経常損益の部			
営業損益の部			
営業収益	42,484,454	40,356,732	85,557,936
営業費用	43,039,902	40,587,273	85,632,315
営業利益(又は営業損失)	△ 555,448	△ 230,540	△ 74,378
営業外損益の部			
営業外収益	159,506	173,236	318,661
営業外費用	297,908	200,267	482,576
経常利益(又は経常損失)	△ 693,849	△ 257,571	△ 238,294
特別損益の部			
特別利益	62,499	164,962	308,742
特別損失	41,131	669,922	813,902
税引前中間(当期)純利益 (又は税引前中間(当期)純損失)	△ 672,481	△ 762,532	△ 743,454
法人税、住民税及び事業税	1,209	1,175	2,741
法人税等調整額	△ 272,422	△ 274,840	△ 247,933
中間(当期)純利益 (又は中間(当期)純損失)	△ 401,268	△ 488,866	△ 498,262
前期繰越利益	62,236	83,612	83,612
自己株式処分差損	6	—	—
中間配当額	—	—	17,009
中間(当期)未処分利益 (又は中間(当期)未処理損失)	△ 339,038	△ 405,254	△ 431,660

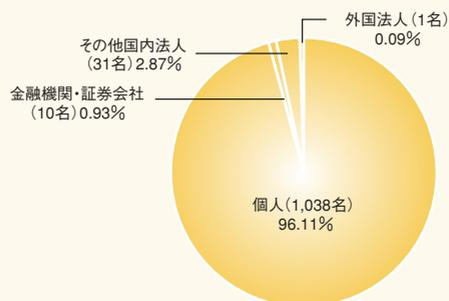
株式の状況 (平成16年3月31日現在)

(1) 会社が発行する株式の総数	30,000,000株
(2) 発行済株式の総数	8,530,000株
(3) 株 主 数	1,080名
(4) 大 株 主	

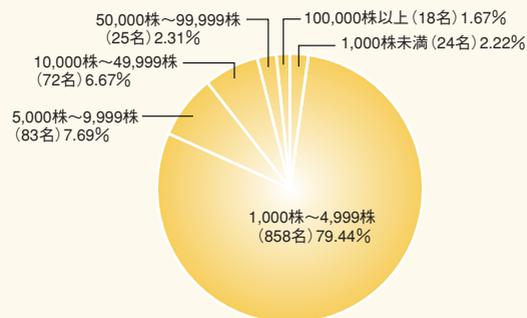
株 主 名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	議決権比率	持株数	議決権比率
木 村 謙 三	405 千株	4.8 %	— 千株	— %
木 村 初 子	351	4.1	—	—
木 徳 神 糧 従 業 員 持 株 会	346	4.1	—	—
木 村 良	312	3.7	—	—
株 式 会 社 東 京 三 菱 銀 行	240	2.8	—	—
稲 垣 辰 彌	225	2.6	—	—
濱 田 精 麥 株 式 会 社	218	2.5	—	—
水 野 正 夫	206	2.4	—	—
木 村 徳 兵 衛	202	2.4	—	—
株 式 会 社 三 井 住 友 銀 行	186	2.2	—	—
農 林 中 央 金 庫	186	2.2	—	—

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 議決権比率は、小数点第2位を切り捨てて表示しております。

●株式の所有者別分布状況



●株式の所有数別分布状況



会社概要 (平成16年3月31日現在)

商 号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、バイオフラワー事業

本社所在地 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー14階
TEL 03-5479-7111 (代表) FAX 03-5479-6999

資本金 5億2,950万円

従業員数 155名 (男性131名、女性24名)

役員 (平成16年4月1日現在)

取締役・監査役

代表取締役社長	木	村	良
専務取締役	松	山	正吉
専務取締役	平	山	惇
取締役	木	村	友二郎
取締役	水	野	正夫
常勤監査役	土	田	秀三
監査役	大	川	孝之
監査役	中	島	淳

執行役員

執行役員	志	村	安彦
執行役員	山	本	幸雄
執行役員	天	川	誠



事業所一覧 (平成16年3月31日現在)

本店	東京都中央区銀座
本社	東京都品川区東品川
首都圏営業部	横浜市西区浅間町
飼料事業部	横浜市西区浅間町
桶川精米工場	埼玉県桶川市
本牧精米工場	横浜市中区かもめ町

株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主および実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。(年2回実施)

3月31日現在の株主の皆さまには一律2,000円相当。

9月30日現在の株主の皆さまには一律3,000円相当。

※平成16年3月31日現在の株主の皆さまには、当社独自の評価システムにより厳選した最上級米「米浪漫」300g入り10袋を贈呈いたしました。



株 主 メ モ

- 決 算 期 毎年9月30日
- 定 時 株 主 総 会 毎年12月に開催いたします。
- 基 準 日 定時株主総会については9月30日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 9月30日および中間配当金の支払いを行うときは3月31日
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
- 同 事 務 連 絡 先 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
(郵便物送付先) 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(お問い合わせ先) TEL 0120-707-696<フリーダイヤル>
- 同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
- 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求および買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。

貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>